

凸版印刷、建材・設備メーカー向け BIM 活用サービスを開発

専門的な知識がなくても BIM データの管理・更新・提供を可能にし、
建材・設備メーカーの BIM データの活用をサポート

凸版印刷株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役社長:磨 秀晴、以下 凸版印刷)は、商品における画像やスペックなどの多様な情報を一元管理しマルチユースを実現する統合情報データベース「GAMEDIOS® (ガメディオス)」を1996年より提供しています。

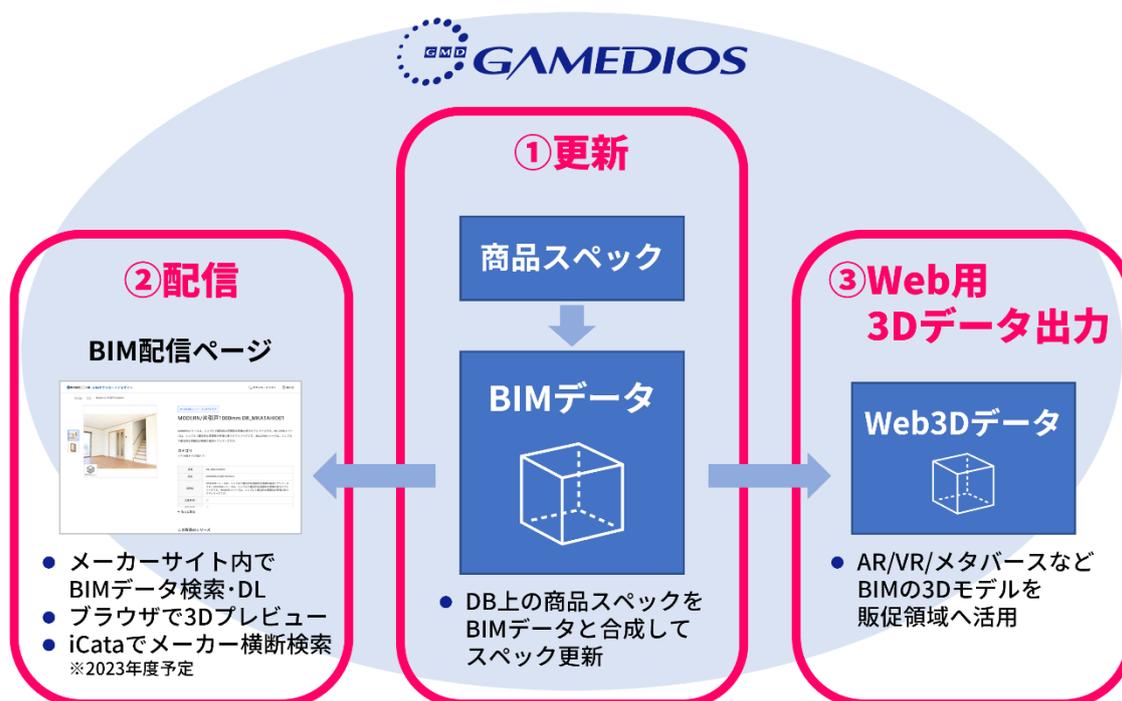
このたび、「GAMEDIOS®」の新機能として、建材・設備メーカーが持つ製品データを登録し、簡単に BIM データの管理・更新・提供ができる「GAMEDIOS® BIM オプション」(以下、本サービス)を開発。2022年10月より Revit®(※1)版の提供を開始します。

*BIM(Building Information Modeling)…建築物をコンピューター上の3D空間で構築し、企画・設計・施工・維持管理に関する情報を一元化して活用する手法

具体的には、管理画面上で建材・設備メーカーが持つ各種製品の BIM データと、色・サイズ・価格などのスペック情報を登録すると、「GAMEDIOS®」に搭載されている BIM 変換エンジンが3Dモデルデータとスペック情報の合成処理を行います。これにより、導入メーカーは BIM ソフトを使用することなく簡単に BIM データ内のスペック情報を更新することが可能です。また、登録した BIM データを公開・提供する Web サイトを連携し、本サービスに登録した BIM データをそのままゼネコンや設計事務所向けに提供することができます。

なお、凸版印刷は2022年10月28日(金)に開催される「Archi Future 2022」(会場:TFTホール)にて本サービスを紹介するブースの出展、ならびにテクニカルフォーラムでの講演を予定しています。

本サービスを活用すれば、専門的な知識がなくても BIM データの取り扱いが容易になるため、建材・設備メーカーは製品 BIM データの整備と活用がより行いやすくなります。また、カタログ用 CG データと BIM データの同時制作や、BIM データから作成した3Dモデルの活用など、BIM の販促分野への活用を支援します。



「GAMEDIOS® BIM オプション」全体イメージ

■ 開発の背景

建築業界における BIM 活用が近年ますます広がりを見せるなか、国土交通省は 2023 年度までに中規模以上の公共工事において BIM の原則適用を決定しており、今後さらなる BIM 活用の本格化が想定されます。これを受け、建材・設備メーカーでも自社製品の BIM データ整備の需要が高まっていますが、社内外での BIM オペレーターリソース不足や、複数 BIM ソフトの対応が求められることなどから、自社製品の BIM データをメーカーが管理・配布するにはまだ課題があります。

このたび、凸版印刷は、「GAMEDIOS® BIM オプション」を開発。建材・設備メーカーが容易に BIM データを扱うことができるサービスの提供を開始します。これまで、凸版印刷では、建材・設備メーカーに向けて商品情報データベース「GAMEDIOS®」やデジタルカタログサービス「iCata®」などのサービスを展開してきました。本サービスの提供により、今後メーカーにとって必要不可欠となる BIM データの管理・配布や、幅広いデータ活用を支援することで新たな価値を提供します。

■ 本製品の特長

・手軽な BIM データの更新をサポート

BIM データは形状データとスペック(属性)情報の両方が含まれており、価格や品番などのスペック情報の更新が発生するたびに BIM データの更新が必要です。本サービスでは、「GAMEDIOS®」に元となる BIM データと製品スペック情報を登録し、BIM データ内の形状情報に「GAMEDIOS®」に登録された製品スペックを合成処理することで、BIM 専用ソフトを使用することなく BIM データ内の製品スペックを更新することが可能です。

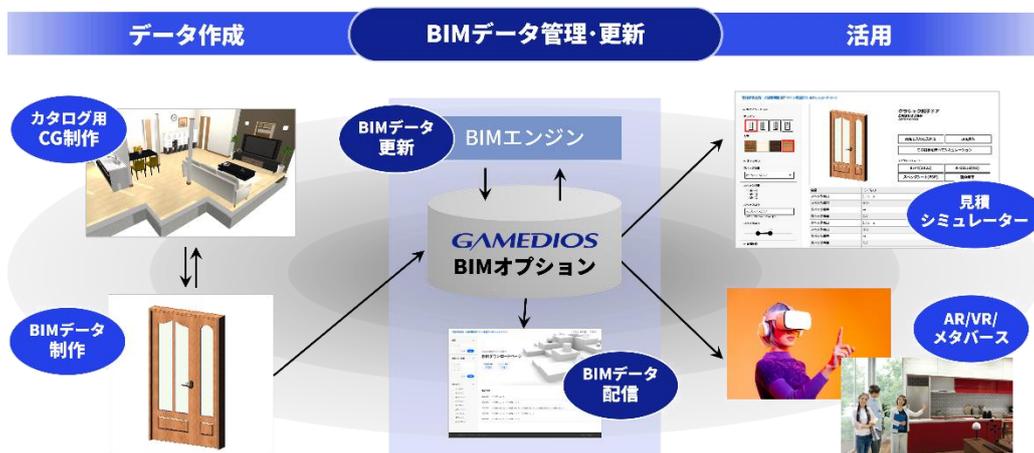
・BIM データ配信サイトと連携し、すぐにいつでも BIM データの提供が可能

建材・設備メーカーが「GAMEDIOS®」で管理・更新した BIM データは、外部向けに配信する Web サイトで利用できます。配信用 Web サイトはメーカーごとにカスタマイズが可能のため、このサイトを自社コンテンツとして提供することが可能です。配信データは「GAMEDIOS®」と連携しているため、サイトのための更新作業は不要です。

・Web 向け 3D モデルデータ自動生成

本サービスでは、BIM データ合成時に Web ブラウザ等で閲覧できる 3D モデルデータを生成します。このデータは、本サービスが提供する BIM ダウンロードサイト上で製品形状プレビューとして利用されるほか、販促・プロモーション領域におけるデータの 2 次活用にも利用できます。

これまで凸版印刷はカタログ制作や AR/VR/メタバースを活用したプロモーション・サービスなどの販促領域で 3D データを扱ってきました。これらのノウハウを活かし、カタログ用 CG と BIM データの同時制作や、3D モデルデータを活用した見積シミュレーションの構築、ビジネス向けメタバースサービス基盤「MiraVerse®」をはじめとする AR/VR/メタバースへの展開など、BIM データの販促分野への活用を支援していきます。



■ 価格

BIM オプション利用費 月額 5 万円～

※「GAMEDIOS®」 ASP サービス初期設定費用 50 万円～、月額費用 10 万円～

■ 今後の目標

凸版印刷は、今後「GAMEDIOS® BIM オプション」をバージョンアップし、Revit®以外の BIM ソフトへ対応していきます。また、2023 年度にはデジタルカタログサービス「iCata®」において、メーカーを横断した BIM データの検索・ダウンロード機能を公開予定です。2025 年度までに本サービス並びに関連サービスにて 10 億円の売上を目指します。

■ 「GAMEDIOS®」について

「GAMEDIOS®」は、柔軟かつ強固なデータ管理仕様に基づいて、企業のデジタルデータのワンソース・マルチユース展開を強力に支援する商品情報統合データベースです。刻々と変化する情報構造に柔軟に対応でき、製品情報やそれに付随するカタログ素材、CAD データの管理用データベースとして、住宅建材・設備業界を中心に多種多様な業界、200 社以上で利用されています。

さらに、「GAMEDIOS®」をベースとして構築された関連サービスとして、製品情報データベース「MediaPress®-Net」、デジタルカタログサービス「iCata®」、資料管理アプリ「SalesStation+®」などを運営しています。

■ 「Archi Future 2022」について

会期：2022 年 10 月 28 日(金)10:00～17:45

会場：TFT ホール(東京・有明)、凸版印刷ブース:E-31

主催：Archi Future2022 実行委員会

公式サイト：<https://www.archifuture.jp/2022/>

テクニカルフォーラム情報：

日時/会場	2022 年 10 月 28 日(金)15:00～15:30 / TFT 東館 9F 会議室(D 会場)
テーマ	設備メーカー様における BIM データ管理の課題と解決 ～「GAMEDIOS BIM オプション」による BIM データ管理～
登壇者	凸版印刷株式会社 西日本事業本部 関西事業部 関西ビジネスイノベーションセンター デジタルプラットフォーム部 部長 馬地宏一

※1 Revit®

Autodesk が提供する BIM ソフトウェア。意匠、構造、設備の多分野に対応しています。Revit API による様々なソフトウェアとの連携や部材の属性情報管理機能により、高次元なデータの利活用を実現します。現在 14 ヶ国語に対応しています。

* 本ニュースリリースに記載された商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。

* 本ニュースリリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。

以 上